

ムダなダムをストップ!!

事務局だより No. 59 2018年4月16日 ムダなダムをストップさせる栃木の会

第25回観察会のご案内

南摩ダム建設予定地で 春の観察会

いよいよダム本体工事が始まろうとしている南摩で
春の野鳥、蝶、川虫の観察をします
今回は植物（特にタケ・ササ類）の専門家が参加して下さる予定です
観察会の会場は、ダムの底に沈むために立ち退きを余儀なくされた
かつての西之入集落の人々の生活の場です
ダムのない南摩の自然の姿を
しっかりと目に焼き付けておきませんか
現地の状況により、観察コースが変更されることもありますが、
どうかご了承ください

日時：4月28日（土）9：00～ 13：00

集合場所：鹿沼市上南摩・室瀬バス停付近

持ち物：昼食、飲み物、観察用具適宜

参加費：100円

共催：日本野鳥の会栃木・ムダなダムをストップさせる栃木の会

思川開発事業を考える流域の会・水環境条例制定ネットワーク

問合せ：葛谷（028-634-9070）塚崎（0288-26-3324）

北村（028-673-9458）

総会のお知らせ

ムダなダムをストップさせる栃木の会の総会を開きます。
会員のご参加をお待ちします。

日時：5月 17日（木） 17時

場所：栃木県弁護士会館 4F

この30年間に1, 275基のダムが撤去された！！

アメリカ合衆国の場合

「野生の川の保護」、「こわされた川の復元」、「きれいな水の保全」を活動目的に掲げ、荒れた川を保護し、修復し、人と自然のために活動している自然保護団体 AR (American Rivers) の報告によると、アメリカ合衆国では、時代遅れの、また安全性に問題のあるダムの撤去がどんどん行われており、2017年には時代遅れの安全性に問題のあるダムが86基も撤去され、この30年間に撤去されたダムは1, 275基にも上るといふ。ARは、ホームページによると、全米に事務所をもち、275, 000人以上の会員、支持者、ボランティアを擁し、毎年、年次報告書を出している、という。以下はARの報文からの抜粋。

2017年には86のダムが撤去された！

昨年は、全米のあちこちでダム撤去の記念すべき年となった。2017年は86のダムが撤去されたが、これは過去最高だった2014年の78ダムを上回るもので、21の州の市や町で、NPOや州や国の機関が協力し、延長550マイル(約880km)以上の川の流れを復活させたという。

最も多くのダムを撤去したのはペンシルヴェニア州で16ダムだった。2番目がカリフォルニア州の10ダム、3番目がマサチューセッツ州の9ダムであった。

2017年に撤去されたダムの記録を押し上げた要因としては、時代遅れで安全性に問題のあるダムを撤去することのメリットが周知されてきたことが挙げられるが、ARや陸軍工兵隊や米国土木学会等の組織が官民挙げて協力し、ダム撤去プロジェクトを回していること、さらに老化したダムを維持していくためにはコスト(保安上の問題でダムの所有者に負担)がかかることも挙げられる。

ARの報文を読んで

日本ではダムの定義として、堰堤の高さが15m以上のものを指すが、アメリカにはそのような定義はなく、規模の小さい堰のような構造物も含まれる。それにしても、30年間で1275基ものダム(ないしは堰堤)が撤去されるとは、驚きを通り越して声も出ない。南摩ダム等計画されてから50年以上も経過し、なお本体工事にも入れなかったダムを、まだこれから造っていかうとしている日本の現状は、アメリカの人々には到底理解できないだろう。

日本のダム建設には未だ100年そこそこの歴史しかないと言われるが、アメリカではダム撤去に関してすでに100年の歴史があるということだ。

アメリカのダムの撤去プロジェクトでは、ダムの魚類や野生生物への悪影響が重視されているようだ。多少の利水や治水の機能があっても、流水を止めたことによる生物の生息環境に与える悪影響の方がはるかに大きい、と考えられているのだろう。ダムがこんなにも次々と撤去されるのは、そもそも建設する際に十分なアセスメントが行われなかったとも言えるが、生態系の変化に対する認識が不足していたこと、十分なアセスを行ったとしても予測不可能な事態は起こりうること、予想外の事態に至った場合には潔く速やかに撤退することができること、色々なことを考えさせられた。

(文責：葛谷 理子)

下野新聞
2018/3/13
思川開発巡り
地下水使用要望

3市町に市民団体
鹿沼市の思川開発事業
(南摩ダム)を巡り市民団
体「栃木県南地域の地下水
をいかす市民ネットワーク」

ク(代表・大木一俊弁護士)は12日、栃木、下野、壬生3市町長に、水道用水に地下水を使い続けるよう求める要望書を、署名約1万1千人分と共に提出した。

南摩ダム完成後、県が3市町にダムの水を卸売りする計画がある。同ネットワークは「地下水のみを使っている3市町の水道用水にダムの水(河川の表流水)が加わることになり、水道料金の上昇と水質の低下を



署名簿を提出する大木代表(右端)ら12日午前、下野市役所

下野新聞→

2018年3月13日

「南摩ダム」を巡り、下野市、栃木市、壬生町の市民団体が要望書と署名簿を提出した。

招く」と懸念している。

この日は3市町の担当部署を訪れ要望書と署名簿を提出。下野市役所を訪れた大木代表は「安く、おいしく、安定供給される地下水利用の維持をぜひ検討して」と訴え、同市の長敷総合政策部長は「県や関係市町でつくる」協議会で議論し、必要に応じて市民や議会と情報共有したいと答えた。

また3、4月の壬生町議選と栃木市議選の立候補予定者に行ったアンケート結果も同日公表。全体の約2割の11人が回答し、「情報が住民に周知されていると思うか」との問いに全員が「思わない」と答えたことなどを明らかにした。

←2018年3月28日

下野新聞

ムダなダムをストップさせる栃木の会

事務局：鹿沼市貝島町472-7

TEL：0289-63-1571

FAX：0289-63-1571

年会費：3,000円

郵便振替口座：00140-1-500609

2018/3/28 F時
ダム完全撤去
自然の状態に

熊本、国内初

熊本県が2012年から続けてきた八代市の県営荒瀬ダム(長さ約210m、高さ約25m)の撤去作業が完了し、同ダム近くで27日、県主催の式典が開かれた。県などによると、ダム本体を完全に撤去し自然の状態に戻したのは国内で初めて。式典には地元住民ら約50人が出席し、蒲島郁夫知事は「高度経済成長を支えた多くの建造物が、今後次第に使命を終える。全国初のコンクリートダム撤去は後世に伝えるべき貴重な経験や財産だ」とあいさつした。

ダムがあった球磨川の流域では、戻りつつある清流を活用した地域おこしの動きが始まっている。県はダムがあったことを後世に伝えるため、右岸の堤体の一部を遺構として残り両岸に展望スペースを設置。撤去の総事業費は約84億円を見込む。熊本県によると荒瀬ダムは1955年に県が建設した発電専用ダムで、洪水調節機能はない。